

PRESS
RELEASE



日本学術会議は、「学術の大型施設計画・大規模研究計画マスタープラン」(マスタープラン2011 平成23年9月改訂)に、疾患酵素学研究センターと疾患ゲノム研究センターから提案した大規模研究計画を選定しました。

マスタープラン2011に選定されたことにより、予算措置が保証されるものではありませんが、科学技術・学術審議会では策定されたマスタープランを踏まえ、大型プロジェクトを推進にあたっての優先度を明らかにするため、ロードマップを作成しており、それにより一部の大型計画が予算化されています。本学の計画も今後、予算化が期待されます。

1. 概要

日本学術会議は、国際レベルでのわが国の学術研究の推進における大型計画の重要性に鑑み、各分野の研究者コミュニティにおける大型施設計画及び大規模研究計画の構想を集約し、科学的な視点から評価を行い、我が国の学術研究や科学技術の発展に真に必要と認められた大型計画について、その意義や概要を取りまとめた「学術の大型施設計画・大規模研究計画マスタープラン」(マスタープラン2010)を平成22年3月17日に策定しました。また、マスタープランの改訂(マスタープラン2011)を平成23年9月28日に行いました。

マスタープラン2010では7分野43研究計画を選定しましたが、改訂されたマスタープラン2011では、「マスタープラン2010」の43計画のうちの12計画に替えて、新たに15計画が追加され、7分野46計画が選定されました。

2. 選定された大規模研究計画

○疾患酵素学研究センター

- ・計画名称：メタボロミクス研究拠点の形成
- ・所要経費：250億円(初期投資・施設整備：130億円 運営費：120億円)
- ・計画期間：平成23年度～平成30年度
- ・研究概要：代謝産物は生体状態を現すバロメーターである。それらを網羅的、包括的に解析する中核メタボロミクス研究拠点を形成し、我が国のメタボロミクス研究の飛躍的発展、普及とともに医学、薬学、農学への応用を計る。

このプログラムで疾患酵素学研究センターは、感染症国際研究中核拠点として活動します。

○疾患ゲノム研究センター

- ・計画名称：ヒトプロテオゲノミクスネットワーク：ヒト生命と病気の解明を目指す研究体制の構築
- ・所要経費：140億円(初期投資・設備投資：40億円 運営費：100億円)
- ・計画期間：平成23年度～平成33年度
- ・計画概要：エピゲノムとプロテームをプロテオゲノミクスとして統合し、オールジャパン型ネットワーク体制を構築し、ヒトの生命と病気を解析する。

このプログラムで疾患ゲノム研究センターは、提案責任者が所属する機関となっており、研究中核拠点として活動します。

お問い合わせには随時対応しますので下記担当者にメールかお電話でお問い合わせ願います。

お問い合わせ先

○徳島大学疾患酵素学研究センター

応用酵素・疾患代謝研究部門

教授(センター長) 木戸 博

〒770-8503 徳島市蔵本町3丁目18番地の15

<tel:088-633-7423>

[E-mail : kido@ier.tokushima-u.ac.jp](mailto:kido@ier.tokushima-u.ac.jp)

○徳島大学疾患ゲノム研究センター

遺伝子実験施設

教授(センター長) 高浜 洋介

〒770-8503 徳島市蔵本町3丁目18番地の15

<tel:088-633-9452>

[E-mail : takahama@genome.tokushima-u.ac.jp](mailto:takahama@genome.tokushima-u.ac.jp)